

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	カクマ難民キャンプにおける青少年育成・保護事業 Education and Protection for Youth in Kakuma Refugee Camp
(2) 贈与契約締結日 及び事業期間	・贈与契約締結日：2017年11月28日 ・事業期間：2017年12月1日～2018年11月30日
(3) 供与限度額 及び実績（返還額）	・供与限度額：482,643米ドル ・総支出：483,000.73ドル（返還額：440.63ドル、 利息798.36ドル含む。）
(4) 団体名・連絡先、事 業担当者名	(ア) 団体名：特定非営利活動法人 難民を助ける会 Association for Aid and Relief, Japan (AAR Japan) (イ) 電話：03-5423-4511 (ウ) FAX：03-5423-4450 (エ) E-mail：staff@aarjapan.gr.jp (オ) 事業担当者名：梅田 直希、駒橋 冴季
(5) 事業変更の有無	事業変更承認の有：無

(ここでページを区切ってください) (ここでページを区切ってください)

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

カクマ難民キャンプ内の中等校1校において8教室の解体・新設、机・椅子などの什器供与に加え、4校でのメンテナンスチームの適切な運営により、中等校の生徒に安全で適切な学習環境を提供した。加えて5校を対象に、青少年が直面する脅威から身を守るためのライフスキル教育の実施、カウンセリングを行う教員や生徒の育成、カウンセリングの実施を通じ、カクマ難民キャンプ内の青少年の健全な育成に寄与した。

(2) 事業内容

本事業では、学習環境の整備、青少年の問題解決能力の強化、学校における青少年の「保護」機能の強化、の3つの活動を実施した。

(ア) 学習環境の整備

カクマ1の中等校において、古くて使用できなくなっていた4教室、および使用可能だが老朽化が激しかった4教室の計8教室を建て替えた。教室建設は1月に着工、7月に竣工し、新設した教室には机・椅子を整備した。また、カクマ1、カクマ2の中等校において、貯水タンク土台の再建、理科室給排水設備の補修工事、教室の窓の修理と鍵の備え付け、窓枠の設置を行った。加えて、学校施設を適切に維持管理するために教員・生徒・保護者から構成されたカクマ1から4の中等校のメンテナンスチームの運営、指導を行った。今期事業開始時に、各校の校長とメンテナンスチームのメンバーで、学習環境改善のために最も優先度の高い活動をアクションプランとして作成し、そのプランをもとに各メンテナンスチームが活動を実施した。具体的には、カクマ1の中等校では壁のひび割れの補修、カクマ2の中等校では教室の床の補修、カクマ3の中等校ではトイレの扉の補修、カクマ4の中等校では図書室の本棚製作等、補修活動を通じて学習環境を整備した。

(イ) 青少年の問題解決能力の強化

カクマ1から4の中等校および女子寄宿舎校の教員計22名を対象に、3月8日から12日にかけて5日間のライフスキル指導者応用研修第2部を実施した。平和教育を主題とした応用研修では、参加教員は日常生活で直面する民族や宗教の違いから起こる諍いを未然に防ぎ、話し合いを通じて問題を平和的に解決するための手立てを学んだ。また、これらの話題に関連した授業手法を模擬授業などの実技を通して体得した。本研修は外部からライフスキル教育の専門家2名を招聘し実施した。研修最終日には質問票を用いた調査を行い、参加教員の理解度を確認した。応用研修終了後は、各校が研修中に作成したアクションプランに基づいたライフスキル教育を計画的に実践しているか、当会職員が継続してモニタリングを行い確認した。

また、日常的に対象校5校を巡回し、授業だけでなくライフスキルクラブの活動支援・指導を継続して行った。ライフスキルクラブの活動では、学校内に留まらず保護者や地域住民の理解促進のため、啓発イベント等を実施した。具体的には、6月30日にカクマ1とカクマ2の、7月13日にカクマ3とカクマ4の中等校合同の、7月14日には女子寄宿舎校の文化祭が開催され、全校で平和教育を主題とし、平和に関する名言などを記載したポスターの展示や、歌や寸劇の披露がなされた。各回1,000人から2,000人の生徒、教員、保護者が参加し、異なる宗教・民族の平和的共存を目指すことの大切さについて理解を深めた。加えて、11月15日には地域住民への啓発イベントを実施し、3校のライフスキルクラブが出席した。イベントでは、早期結婚や早期妊娠についてライフスキルクラブのメンバーと地域住民が対話することで、住民の正しい知識の習得やライフスキルの重要性に対する理解を促した。さらに、ニュースレターを3回発行し、女子教育や平和

教育の重要性、同クラブのメンバーが抱えていた問題をどのように乗り越えたかといった体験記等について掲載し、生徒や地域住民の意識向上に努めた。

(ウ) 学校における青少年の「保護」機能の強化

2018年1月25日から27日の3日間の日程でカウンセリングリフレッシュ研修を実施し、第1期でカウンセリング研修を受講した教員20人がカウンセリング知識の更なる定着と指導能力の向上を図った。講師は当会雇用のカウンセラー、および Danish Refugee Council (DRC) からカウンセリングの専門家を招聘し2名で実施した。

加えて、新たに各校のガイダンス・カウンセリング部門から担当教員23人を選定し、カウンセリング基礎研修を5月24日から28日、6月12日から16日の2回に分けて計10日間の日程で実施した。研修中はケニア国籍の教員、難民から登用したインセンティブ教員が共に積極的な意見交換を行い、カウンセリングの知識を深めた。講師は当会雇用のカウンセラー、およびカクマ3の中等校でガイダンス・カウンセリング部門に所属する教員を招聘し2名で実施した。

各研修の実施前後に確認テストを行い、参加者の理解度を測定した。研修を受けた教員たちは、当会カウンセラーの定期的な巡回と指導の下、対処が難しい専門的なケースを除き、生徒から受けた相談に個別対応し、のべ152人の生徒にカウンセリングを行った。

さらに、カクマ1の中等校では7月26日、27日に、カクマ2の中等校では9月12日、13日に、女子寄宿舎校では7月30日、31日に、各校から30名、計90名の生徒を対象にピアカウンセリング研修を行った。研修を通し、ピアカウンセラーとなる生徒が、性暴力、薬物使用、早期結婚および早期妊娠などの問題を抱える他の生徒に対し、カウンセリングを実施するための知識と技術を学んだ。講師は当会雇用のカウンセラー、およびガイダンス・カウンセリング部門の担当教員を招聘し2名で実施した。研修実施後は、質問票にて参加者の研修に対する満足度や改善点を明らかにした。

また、当会所属のカウンセラーが中等校全5校を毎週2回巡回し、第1期に建設したカウンセリング棟を使用し、のべ131人の個別カウンセリングを行った。

(3) 達成された成果

(ア) 学校環境の整備

【成果】生徒の教育を受ける機会が拡充され、学習環境が整うとともに、校舎や教室が適切に維持管理されるようになった。

指標①: カクマ1の中等校における8教室の建て替えにより、生徒576人に安全な学習環境、教育機会を提供した。

指標②: カクマ1、2の中等校計2校において、施設が適切に補修された。その結果、カクマ1の中等校では理科室の実験において、室内の水道を利用できるようになったため、屋外から水を汲み運ぶ作業が無くなり、授業時間の確保に繋がった。カクマ2の中等校ではドア、窓の修繕、窓枠の設置により休校期間の机・椅子などの什器の盗難が大幅に減少した。

指標③: 中等校4校で、教員、生徒、保護者からなる学校施設のメンテナンスチームの活動が継続され、今期事業開始時に作成されたアクションプランのうち全体で7割強が実施された。これにより、教室側壁の軽微なひび割れ、トイレの扉の補修などが行われ、生徒が安心して学ぶことのできる学習環境を維持し、より長く学校施設が利用できる環境が整備された。また、教室の増築や学校施設の改修などハード面の改善により、副次的に生徒や教員の学習および教授に対する意欲向上に繋がった。また、メンテナンスチームで習得した実践的な技術を卒業後に就職した先で活かす生徒も見られ、生徒の進路選択にも寄

与した。

(イ) 青少年の問題解決能力の強化

【成果】教員が学校でライフスキル指導を実施し、生徒がさまざまな脅威から身を守るための知識やソーシャルスキル（社会技能）を身に付けた。

指標①：22人の教員がライフスキル指導者応用研修第2部を受講し、研修後のアンケート調査の結果から9割以上の教員のライフスキル知識の向上を確認した。

指標②：研修を受けた教員が学校にてライフスキル教育を実践し、約1,800人の生徒がライフスキル教育を受講した。これまで、主に女子生徒を対象としてライフスキル教育を行ってきたが、今期事業終了時の評価調査においては男子生徒もライフスキル教育に関心を持つなどの変化が見られるようになり、本教育の重要性が各校にて波及しつつあることが確認された。また第1期から始まった、研修を受講した女性教員らが毎週放課後に女子生徒と対話形式にてライフスキル教育の知識を深めるガールズミーティングを引き続き行っている。教員に質問や相談をする場ができたことで、女子生徒の高い中退率の低下に寄与した。

指標③：5校で1回ずつ保護者や地域住民を対象とした啓発活動が実施され、各校のライフスキルクラブの生徒たちが平和、麻薬使用防止に関する歌や寸劇を披露するとともに、早期結婚、早期妊娠といった話題を通して女子教育の重要性について意見交換を行った。それぞれの活動に1,000人から2,000人、計5,000人以上が参加した。啓発活動の前後でライフスキル教育の理解度を測る調査を行った結果、調査対象者の8割以上にライフスキル教育の理解度の向上が見られた。

(ウ) 学校における青少年の「保護」機能の強化

【成果】生徒が悩みや問題を相談できる環境が整い、それらへの適切な対応がなされた。

指標①：23人の教員がカウンセリング基礎研修を受講し、研修終了時に行った事後テストでは9割以上の教員に理解の深化が確認された。

指標②：先行事業で研修を受けた教員20人を対象にカウンセリングリフレッシュ研修を実施し、実施前の事前テストの正答率約5割から、研修後では9割以上へと向上した。

指標③：のべ131人の生徒が当会カウンセラーによるカウンセリングを受けた。

指標④：のべ152人の生徒が教員によるカウンセリングを受けた。

指標⑤：当会カウンセラーからカウンセリングを受けたのべ131人の中からランダムに選択した100人に対し、カウンセリング内容に関する満足度を測る調査を実施した。その結果、カウンセリングを受けた生徒の96%が、カウンセリングは問題解決に役立ったと回答した。カウンセリングを受けた回数に関わらず、生徒がカウンセラーに相談し、共に解決策を探っていく一連の過程が生徒の心理状態に良い効果を生み出していることが確認された。

(4) 持続発展性

(ア) 学校環境の整備

本事業により建設された全ての学校施設は、完成後に UNHCR と覚書を取り交わした上で同機関へ譲渡され、カクマ難民キャンプ内で中等教育校を運営する Windle International Kenya (WIK) のもとで維持管理が行われる。軽微な補修や修繕は、当会がカクマ 1 からカクマ 4 の各校に組織したメンテナンスチーム主導で行い、生徒が安心して学習できる環境を持続的に維持していく。また、第 3 期では、メンテナンスチームが適切な施設の維持管理を継続して行っていけるよう、保護者からの学費の一部として学校評議会 (Board Members) に納入される資金を学校長と主任教員が適切に管理し、活動の運営資金として使用する。当会は引き続きこれら全ての活動を監督し、WIK との定期的な討議を通して側面支援を行っていく。

(イ) 青少年の問題解決能力の強化

アクションプランに基づいてライフスキル教育が第 3 期でも持続的に行われるよう、モニタリングを継続して行う。また、中間評価や終了時評価を通してライフスキル教育を受講した生徒の行動変容や日常生活での実践の様子を調査する。ライフスキル教育の内容は、生徒のみならず、保護者や地域住民の意思決定の仕方が関連するため、地域住民を対象とした対話型啓発活動を行うことで、ライフスキル教育の重要性や理解の深化を図る。

(ウ) 学校における青少年の「保護」機能の強化

第 2 期で研修を受けた教員へ第 3 期でリフレッシュ研修を行い、知識の更なる定着を図るとともに、参加者はカウンセリングを実践する中で生じた疑問や課題を持ち寄って互いに情報を共有し、講師のカウンセラーがこれらの課題に対する解決法を教授する。これによりカウンセリング能力の向上と持続性を確保する。

さらに、第 3 期事業では、各校のメンテナンスチーム、ライフスキル教育、カウンセリング活動の主任教員を任命し、マネジメント研修を実施することで、本事業終了後も主任教員が中心となって活動の計画策定、実施、評価の全てを適切に行える体制を築く。マネジメント研修には、各活動の主任教員のみならず、各校の校長または副校長、WIK を招聘することで、主任教員が異動した場合にも他の教員や団体職員が対応できるようにする。また、意欲の継続のため、それぞれの活動を熱心に継続して行った教員および生徒には、表彰状および功労賞を贈る。

3. 事業管理体制、その他	
(1) 特記事項	特記事項無し。

完了報告書記載日：2019年2月22日
団体代表者名： 理事長 長（志邨）有紀枝 (印)



【添付書類】

- ① 事業の成果に関する写真
- ② 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ③ 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ④ 人件費実績表（様式4-c）
- ⑤ 一般管理費等支出集計表（様式4-d）
- ⑥ 外部監査報告書
- ⑦ 銀行通帳の出入金記録の写し